

'67

あ

↓

繁榮

195

1967年の幕あけは衆議院選挙、「黒い霧」解散によって、政治は国民の審判を受けたのである。しかし投票の結果は自民・社会両党とも議席はほとんど解散時と変わらないまま、「黒い霧」にあれだけ怒った国民は不信から、政治への無関心の度をいっそう深めていったのだろうか。

それでも平和で繁榮下にある現在、若者たちは政治への関心よりもおしゃれに熱中する。

だが表面安定した社会も、一度むけば多くの問題をかかえている。マスプロ教育、経済のひずみ、産業公害、交通戦争。こうした問題は毎年解決されないまま次の年に持ち越されてきている。

国民の生活の中でこうした問題が日常化してゆけばゆくほど社会のひずみは大きくなり、危険な様相をおびてくる。いま繁榮の中の危険をいたるところで見ることが出来る。